

# 学習支援

## 入院・外来の連携の重要性

---

愛媛大学小児科 森谷京子

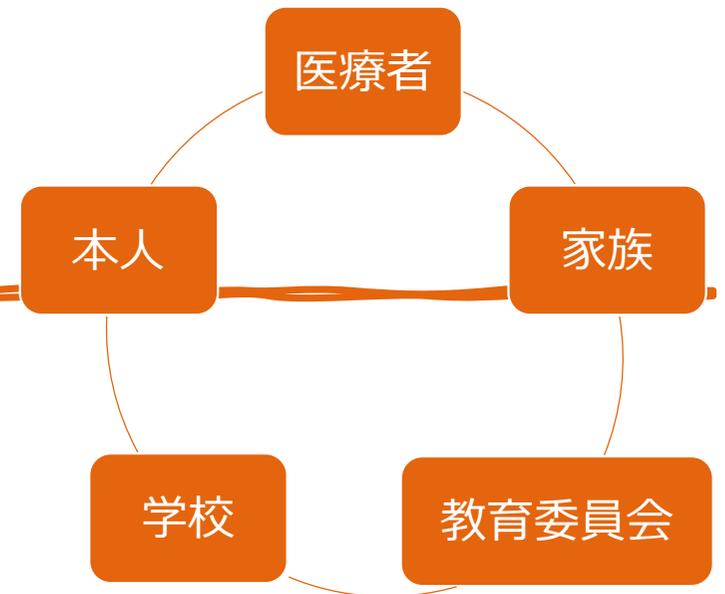
2021/2/28

# 学習支援

- 院内学級
  - 小学校（北吉井小学校）
  - 中学校（重信中学校）
- 学習ボランティア
  - 訪問指導
  - タブレット



# 復学カンファレンス



- 復学する学校をどうするか？

前籍校？ 特別支援学校？ 支援員？

- 学校での生活制限は？

登下校、座席位置、移動方法、食事制限、排泄、学習面での配慮、体育の参加、休養場所、服薬、感染症流行時の対応、緊急時の対応、通院頻度など

- クラスメイトへの説明・きょうだいに対する配慮

親の希望と子どもの希望が異なる場合があるので、双方に確認する必要がある。病名を伝えるのか、どのような表現で説明するのか。

# 当施設の高校生がん入院患者のまとめ (2016-2020)

症例	疾患	高校(入院時)	学校	学習支援	詳細
1	骨肉腫	公立2年生	在籍	あり	学校の遠隔授業、休薬期の登校
2	骨肉腫	公立3年生	在籍	なし	卒業後大学進学予定であったが断念
3	急性白血病	公立2年生	休学	なし	治療終了後復学予定
4	急性白血病	公立1年生	休学	なし	治療終了後復学
5	急性白血病	公立1年生	在籍(留年)	あり	レポート提出による単位取得、休薬期の登校 留年したが、復学後卒業し大学進学
6	胚細胞腫瘍	公立2年生	通信制在籍	なし	入退院を繰り返したため通信制に在籍
7	脳腫瘍	私立1年生	休学	なし	治療終了後復学し、大学進学

# 当施設の中学→高校進学のみとめ (2016-2020)

症例	疾患	院内学級利用	学習支援	進路
1	急性白血病	あり	あり	公立高校
2	急性白血病	あり	なし	公立高校→就職
3	急性白血病	あり	なし	私立高校、高校入試を院内学級で実施
4	急性白血病	あり	あり	私立高校→中退→高卒認定試験
5	急性白血病	あり	なし	私立高校
6	慢性白血病	なし	なし	公立高校
7	骨肉腫	あり	あり	公立高校→就職
8	骨肉腫	あり	なし	公立高校→大学
9	悪性リンパ腫	あり	あり	通信制高校
10	脳腫瘍	あり	なし	公立高校

# 結語

---

- 学齡期の子どもにとって、学校生活は家庭生活とともに重要な意味を持っている。院内学級は病院内にある学校で非日常的な存在ではあるが、唯一闘病生活を忘れることができる日常に近い場所ともいえる。
- 入院した時点から、復学を前提として学校生活が継続できるように学習支援を行うことは、患者さんやその家族の将来にとって重要である。
- 疾患や合併症によって復学時の対応、学習支援は異なるため、医療者、院内学級、前籍校、患者さんと家族が情報共有し、こまめに連絡をとり退院後も環境整備に努めたい。